

□議員名：前田浩司

1 国際交流

論点	中学生海外派遣事業の意義と目的は何か。
回答	本市と友好都市であるモートンベイ市との交流を図り、友好親善と相互理解を深めるとともに、広い視野と国際感覚を持った次世代を担う人材を育成することを目的としている。2018年以降は中学生8名を派遣。今年は16名の応募があり選考により決定した。

論点	多文化共生社会の実現に向けた本市の取組と、今後どのような方向性で進めていくのか。
回答	日本語教室を高千帆地域、厚狭地域にそれぞれ1か所ずつ開設。国際交流協会主催の世界各国の料理教室、親睦と相互理解を深めることを目的としたふれあいバスツアーなどを通して、お互いの文化を理解し合う機会を作り、地域の人々への理解の促進に努めている。

論点	姉妹都市（友好都市）の交流で目指すものは何か。
回答	これまでの友好の絆を一層深めるため、山口東京理科大学とサンシャインコースト大学との連携交流、民間同士の文化及び経済交流に向けた取組により、相互の異文化の理解が深まり、ひいては多文化共生の国際意識醸成につながるものと期待している。

2 農業用ため池の防災対策

論点	適切な保全管理の現状はどうか。
回答	営農に利用するため池は、老朽化の改善として堤体の補強、ため池の水を取水・放流する斜樋や底樋の更新を行う。利用しないため池は、決壊等による被害を未然に防ぐ目的で、堤体の切開による廃止工事を行う。双方ともに、自然環境保全への配慮が欠かせない。

論点	維持管理はどのように行われているか。
回答	堤体の表面を定期的に草刈りして、堤体状況を確認する。また、ため池の水を取水する斜樋や、満水時にため池から水を排出する洪水吐にたまる流木や枯れ葉などを定期的に清掃している。

論点	定期点検はどのように行われているか。
回答	点検は斜樋や底樋などのため池施設が正常に機能するかの確認や、堤体の表面を目視することにより、漏水、崩壊、陥没、クラックなどが発生していないか確認し、早期に問題を発見、必要ならば修復を行い施設や堤体の寿命を延ばすことで安全性を確保している。

論点	安全対策にどのように取り組んでいるのか。
回答	数年に一度、ため池の貯水を全て抜き、池干しを行うことで堤体や取水施設の観察、早期に劣化や破損等の保守作業を実施し安全確保に努めている。

論点	災害対応やため池の取水施設、斜樋等の故障によって放流ができないなど、農業ため池の緊急時の対応についてはどうか。
回答	近年の大雨や線状降水帯による突発的な水位上昇に、排水処理が間に合わないこともあり、ため池サポートセンター山口が、ため池緊急放流用のサイホンの無償貸出しを行っている。より迅速な対応として、市としてサイホンを令和5年度に1台購入している。

論点	ため池管理者と行政が情報を共有する「ため池管理アプリ」の活用状況についてどうか。
回答	県が実施する緊急点検の現地訓練でアプリを活用している。ため池管理者が報告する設備の老朽化状況の写真や動画の送信時にかかる通信料など、利用者負担の補助は現在のところ検討していない。